MOBOTIX JAPAN

2017年6月7日

製品案内

ハードウェア＆ソフトウェア

■MxManagementCenter(MxMC) Version 1.4
ツリー構造を拡大、よりフレキシブルなグリッド定義、新しいセキュリティ・オプション、その他

■MxThinClient
モニター/TV上でのカメラとドアステーションのライブ画像表示のためのIPビデオ・インターフェイス

製品案内

ハードウェア＆ソフトウェア

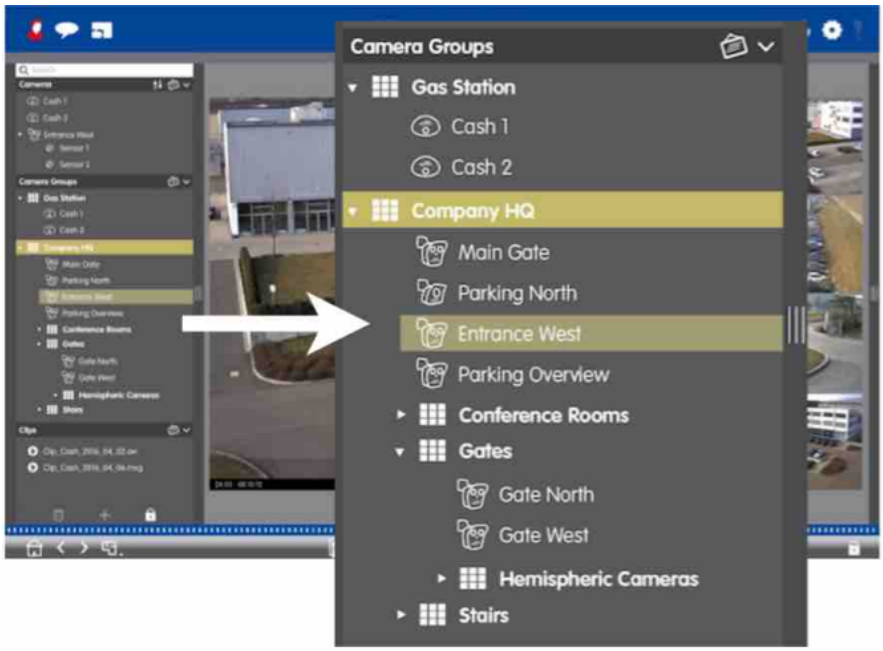
1. MxManagementCenter(MxMC) Version 1.4

カメラグループのための拡張したツリー構造を持つデバイス・バー（ネスト化されたグループ）

MxMC v1.3以降における全ての表示の左側に拡張可能なデバイス・バーが含まれています。下層のツリー構造はユーザーに基本的な構造の全体概要を提示し、映像ソースを素早く選択し管理することを可能にします。MxMC v1.4を始めとして、幾つかのグループ・レベルで1つのツリー構造を作ることができるようになりました。これは、全てのカメラグループが1つ以上のカメラのサブグループを含むことができることを意味しています。ドラッグアンドドロップで非常に容易にサブグループ構造を作ることができます。

右の例では、Company HQグループがサブグループのConference Rooms、Gates、Stairsを含んでいます。Gatesサブグループは同様にその下にHemispheric Camerasというサブグループを含んでいます。

カメラをできるだけ多くのネスト化された(サブ)グループに組み込んでも、そのツリー構造は依然として管理しやすいままになっています。



製品案内

ハードウェア＆ソフトウェア

グリッド表示を設定するための新たな機能と制御

グリッド・ビュー或いはグリッド再生のグループ内において、個々のカメラの映像表示或いはアレンジの為の下記のオプションは、MxMC v1.0以降でご利用いただけます。

・グループのカメラ台数を0〜80の間の規定の数字に限定します。（フォーカスウィンドウのカメラを数えずに）
・グループ内の全てのカメラのタイルのフォーマットを縦横比4:3、16:9或いは8:3から選べます。
・フォーカスウィンドウを他のタイルに比べて0〜8倍のズームを選択できます。
・個々のグループでフォーカスウィンドウをオフに切り替えることができます。

MxMCは他のビデオ管理システムよりも特別な優位性を持っています。;1つのグリッドのタイルが、現在選択されているウィンドウサイズによって、モニター上で**完全に自動に**アレンジ或いは割当られます。（デフォルトではオートグリッド）

MxMC v1.4は同様に下記の操作が可能:

・全ての他のウィンドウサイズのために、現在のウィンドウサイズをベースにしたオートグリッドの中で、MxMCによって作られたタイルのアレンジを固定
・規定の基本グリッド（オプション:4:3、16:9、8:3）をベースにした1つのグリッド内にそれぞれ個々のタイルを配置;サイズの変更、それぞれのウィンドウサイズのために結果的に作られたグリッド・レイアウトを固定、適宜調整。
（マニュアル・グリッド）　これにより1つのグリッド内で異なる画像フォーマットを混在させる事が可能となります。
（例:4:3の基本グリッドで4:3、8:3、16:9、4:6などのフォーマット・オプション、16:9の基本グリッドで16:9、32:9のフォーマット・オプションなど）

グリッド・タイプの設定（オート/マニュアル）は、編集モード（ロック解除）で実行されます。MxMC v1.4以降において、このために要求された全ての制御は、もはやグループ・バー或いはグループ設定ダイアログでは見つけることができません。; その代わりに、グリッド・ビューにおいてのみコマンドの右下にのみ含まれます。

各々のユーザーによって作成された最後のMxMCの設定を保存

一般的には、与えられたコンピュータ・ワークステーションでのMxMCセッションが閉じられた後、最後に選択されたプログラム・ビュー（ビューとグループのセッション、開かれたサイド・バー、とそのサイズ、ウィンドウの位置）は、MxMCが同じコンピュータ・ワークステーションで再度開かれた際に保存され維持されます。この機能は、MxMC v1.4で補完されており、各々のユーザーがその特別な設定を保存できるようにしています。これは、幾つかのユーザーが同じMxMCがインストールされたワークステーションを利用している場合（複数のセキュリティ担当者がシフト勤務しているような場合）に、各々のユーザーが次回のログインの時に、個々が選択した設定を維持したそのプログラム・ビューを得られることを意味しています。

製品案内

ハードウェア＆ソフトウェア

拡張されたセキュリティ・オプションを持つユーザー管理

MxMCのヘッダーバーの上左にあるボタンをクリックしてアクセスできるユーザー管理ダイアログ・フィールドで、ユーザーパスワードを入力するセクションが、データのセキュリティを高める3つのオプションに拡張されています。

1. パスワードの有効期限

ユーザーはパスワードの有効性を設定できます。それにより、一人のユーザーのパスワードが自動的に失効されるのではなく、自動的に1週間後、2週間後、1ヶ月後、3ヶ月後、半年後に失効されます。パスワードが失効した後は、そのユーザーは、次回ログイン時に新しいパスワードを設定する必要があります。

2.次回ログイン中にパスワード変更を促す

標準的アクセス・データを拘束的に変更し、それによりデータ・セキュリティを高めるために、新しいユーザーがMxMC v1.4で作られた時に、管理者は、ユーザーがMxMCを使用し続ける事ができるようにするために最初のログインをしている間に、このユーザーが個々にそれらの標準パスワードを変更することを自動的に促すためのプログラムを設定できます。（例えば、事前に管理者からユーザーに与えられているパスワードの変更）

3.パスワードの複雑性を高める要求

第3の新しいセキュリティ・オプションは、設定される必要があるパスワードの構造に関係しています。この機能が有効な場合に、システムは下記の場合においてユーザーのパスワードのみ受け付けます。

・最低8桁の文字を含む
・少なくとも1つの数字、1つの大文字、1つの小文字、1つの特殊なシンボルを含む
・過去13回のパスワードの1つとして使用されていない

パスワードの複雑化の要求が満たされるとすぐに、入力欄の周りの枠が赤から緑に変わります。

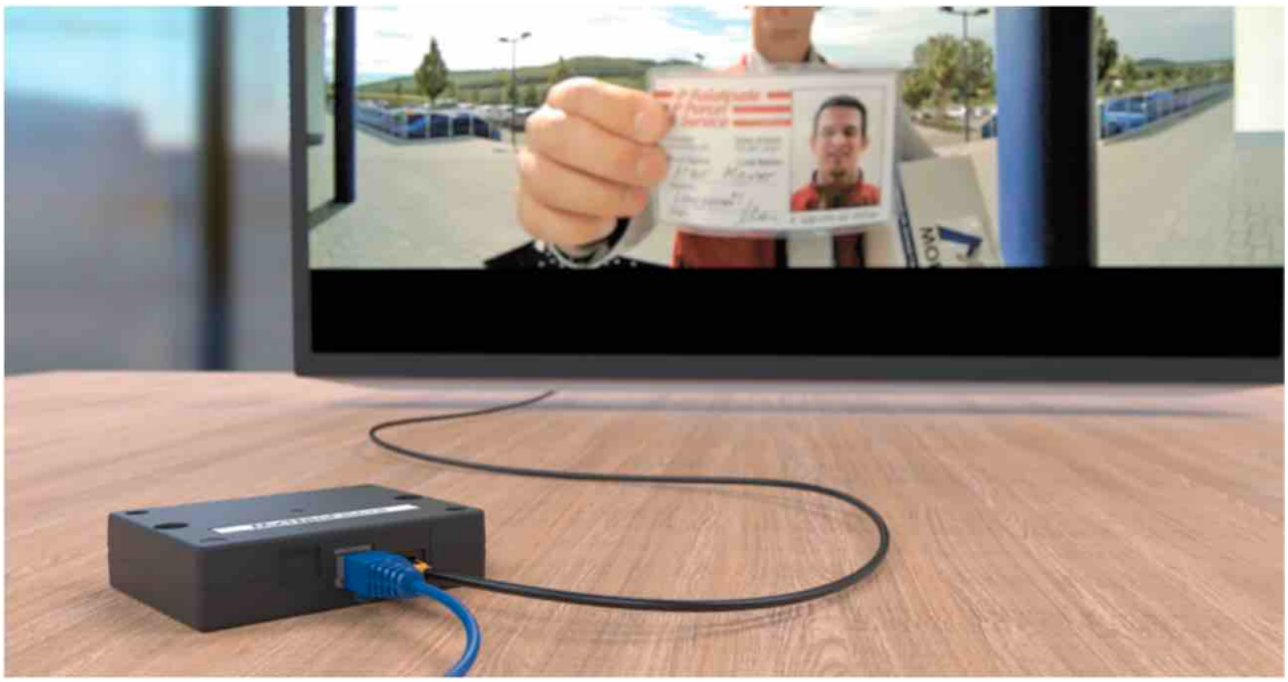
MxManagementCenter Version 1.4とその全ての変更についての情報を含んだリリースノートは、MOBOTIXのウェブサイトから無料でダンロードできます。

MxManagementCenter 1.4 WindowsとMac OS X用			
ダウンロード:www.mobotix-japan.net>ダウンロード>管理ソフトウェア>MxManagementCenter			
詳細	**リリース**	**価格**	**利用**
MOBOTIXビデオ・マネジメント・ソフトウェア MxManagementCenter(MxMC)・**Windows**(Vista以降)**用Version 1.4**・言語パック:英語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、トルコ語、ポルトガル語、日本語・システム要件:2GHzプロセッサー(min)、最低2GB RAM、OpenGL V2.1サポートのビデオカード・無料ダウンロード(32ビットと64ビットWindows用):www.mobotix-japan.net>ダウンロード>管理ソフトウェア>MxManagementCenter	MxMC1.4	0円	利用可能
MOBOTIXビデオ・マネジメント・ソフトウェア MxManagementCenter(MxMC)・**Mac OS** X(10.7以降)**用Version 1.4**・言語パック:英語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、トルコ語、ポルトガル語、日本語・システム要件:2GHzプロセッサー(min)、最低2GB RAM、OpenGL V2.1サポートのビデオカード・無料ダウンロード:www.mobotix-japan.net>ダウンロード>管理ソフトウェア>MxManagementCenter	MxMC1.4	0円	利用可能

製品案内

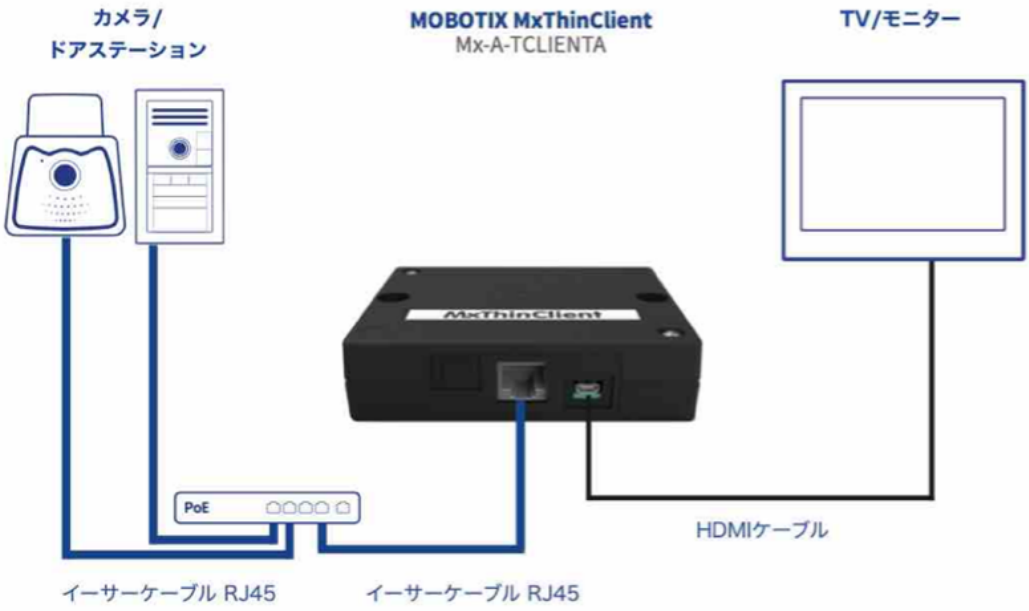
ハードウェア＆ソフトウェア

2. MxThinClient



カメラとドアステーションのライブ画像をモニター/TVで表示するためのIPビデオ・インターフェイス

MOBOTIXから、MOBOTIXカメラ(モデルx24、x14以降)のライブ画像を表示する非常にシンプルでコンパクトなソリューションを提供します。HDMIコネクターとPoEネットワーク・デバイスであるMxThinClientを利用してモニターやTVに表示します。そのために、MxThinClientは表示するカメラが接続されているスイッチの空いているPoEポートにネットワーク・ケーブルを接続するだけです。MxThinClientとモニターはHDMIケーブルで接続されます。もし追加のルーターがスイッチに接続されているなら、ダイナミックDNSサービス経由でインターネットにアクセスできる遠隔のカメラは、MxThinClient統合されモニターに表示することができます。



製品案内

ハードウェア＆ソフトウェア

ユーザーは、MxThinClientを設定(パスワード保護、カメラ統合、シーケンサー、ネットワーク・データ、NTPタイムサーバー)するために、コンピュータをPoEスイッチに接続する必要があります。それによりデバイスはインターネット・ブラウサーとMxThinClientのIPアドレスによってアクセスできるウェブ・インターフェイス経由で設定されます。
MxThinClientは下記のように使用されます。(接続されているコンピュータ無しで)

・モニター/TV上に統合されているMOBOTIXカメラのライブ画像を継続的に表示
・幾つかの統合されたMOBOTIXカメラのライブ画像と接続されたウェブサーバーに保存されたイメージファイルを発生順にモニターやTVに表示(表示の継続時間は、カメラのイメージファイル毎個々に調整可能です。)
・MxActivitySensorのような現行のイベント(カメラとMxMessageSystemにつながったMxThinClient)によりMxThinClientに最後にメッセージを送信したMOBOTIXカメラ(統合された)のライブ画像をモニターやTVに表示。

ライセンス・フリーで、メンテナンス・フリーで、更に非常に省電力な(消費電力2W)MxThinClientには、PoEスイッチ経由で容易に電力を供給できます。また、安定起動します。(電源入力後速く信頼性高く自動起動)　ネットワーク・デバイスはイーサーネット・パッチ・ケーブルの抜き差しによって供給のオン/オフを切り替えられます。カメラ接続が失われた場合には、ユーザーモニター/TV上で直ちに情報を受け取ることができます。

MxThinClientは、キーボードやマウスのような前述した全てのコントロール要素によってユニークなアプリケーションを提供します。その”機能性のみのモニタリング”のため

MxThinClient: 応用例
✓ 小売店での顧客の行き来で利用、例えば、お客様に使用中の映像監視システムを認識してもらうために入口のエリアに。(盗難防止)
✓ 広告や情報(接続されているウェブサーバー/FTPから、録画されたそれ自身のイメージファイル）によるビデオ・シーケンスへの割り込み
✓ シンプルでライセンス・フリーな安全活用の履行とビデオ機材のオペレーションが必要ない場合やライブ画像のみ表示される場合のビデオ・ウォール
✓ MxThinClientは、MxMessageSystemを利用してネットワーク・メッセージ(これはキャプチャーされた動きによるもの)を最後に送信したカメラに自動的に切り替えることが可能
✓ プライベート使用において、コンピュータ、タブレット或いはスマートフォンを必要とせずTV上にドア・ステーション或いは庭に設置したカメラのライブ画像を素早くチェックするため

留意事項: MxThinClientの機能性は、MOBOTIXのウェブサイトで入手可能な無償ソフトウェア・アップデートで更に拡張されます。

製品案内

ハードウェア＆ソフトウェア

MxThinClient: テクニカル・データ	
製品名	MxThinClient
MOBOTIX注文番号	Mx-A-TCLIENTA
環境温度	0~40℃
IP等級	IP20
IK等級	保護なし
使用目的	爆発の危険があるエリアでの使用不可、保護された屋内エリアでのみ使用
寸法	25 x 100 x 80mm
重量	125g
接続	・In: 1 x イーサーネット 100Base-T(RJ45) ・Out: 1 x HDMI Type D(MicroHDMI)
電源	PoE IEEE802.3af
消費電力	2W
サポートしているビデオソース	MOBOTIXカメラ ソフトウェア・バージョン4.4.xと5.0.x、ビデオ・コーデック: MxPEG
最大フレーム・レート	42fps (Mx6カメラ使用、画像プログラム"Fast"選択時)
入力(イーサーネット): サポートしている表示モード	**Hemisphericを含むシングルレンズ・カメラ:** 全ての表示モード **デュアルレンズ・カメラ、カメラ選択"両方":** "パノラマ"以外の全ての表示モード **注意:** カメラで現在設定されている解像度で画像が表示されない場合、MxThinClientはウェブ・インターフェイス経由で設定できるカメラから低い標準解像度(VGA, SVGA, HD, FullHD)を取り出します。
出力(HDMI): サポートされているモニター画像サイズ(調整可能ではない)	640x480p@59.94/60Hz 4:3 • 720x480p@59.94/60Hz 4:3 • 720x480p@59.94/60Hz 16:9 • 1280x720p@59.94/60Hz 16:9 • 1920x1080i@59.94/60Hz 16:9 • 20(1440)x480iH@59.94/60Hz 4:3 • 720(1440)x480iH@59.94/60Hz 16:9 • 20(1440)x240pH@59.94/60Hz 4:3 • 720(1440)x240pH@59.94/60Hz 16:9 • 1440x480p@59.94/60Hz 4:3 • 1440x480p@59.94/60Hz 16:9 • 1920x1080p@60Hz 16:9 • 720x576pH@50Hz 4:3 • 720x576pH@50Hz 16:9 • 1280x720p@50Hz • 1920x1080i@50Hz • 720(1440)x288pH@50Hz 4:3 • 720(1440)x288pH@50Hz 16:9 • 720(1440)x576pH@50Hz 4:3 • 720(1440)x576pH@50Hz 16:9 • 1920x1080p@50Hz • 1920x1080p@23.98/24Hz • 1920x1080p@25Hz • 1920x1080p@30Hz • 1280x720p@100Hz 16:9 • 280x720p@119.88/120Hz 16:9 注意: デバイスが上記フォーマットをサポートしていない場合、画像は表示されない可能性があります。
オーディオ・トランスミッション	無
LED/コントロール	無
ハウジング	ポリカーボネイト、色:黒
マウント・オプション	接着、ボルト留、或いは固定(自由に設置):MOBOTIXは最多大5mmのネジ部の径で最大10mmのネジ頭の平頭ネジの使用を推奨します。

製品案内

ハードウェア＆ソフトウェア

MxThinClient: テクニカル・データ	
標準アクセサリー	モニター/TVウォールにマウントするための両面粘着ストリップ
ソフトウェア機能(リリース・バージョン)	・1台のカメラのライブ画像の表示 ・ウェブサーバー上に保存された画像ファイルの表示(*.jpg/:.png, 最大10MB) ・個々に調整できるカメラ或いは画像表示の持続でカメラと画像のシーケンス ・MxMessageSystemによるイベント制御のカメラと画像の変更 ・MxThinClientはDHCPクライアント或いは固定IPアドレスで使用 ・調整可能なNTPタイム・サーバー ・カメラによるMxThinClientへ転送された最大画像フォーマットの選択 (オプション:VGA, SVGA, HD, Full-HD)
デバイス・ソフトウェア	パスワード保護されたウェブ・インターフェイス、インターネット・ブラウザー経由での設定とオペレーション、6ケ国語オプションのユーザー・メニュー: ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語
認定	EN55032:2012; EN55022:2010; EN55024:2010; EN50121-4:2015; EN61000-6-1:2007; EN61000-6-2:2005; EN61000-6-3:2007 + A1:2011; EN61000-6-4:2007 + A1:2011; AS/NZS CISPR22:2009 + A1:2010; CFR47 FCC part15B
プロトコル	IPv4, HTTP, HTTPS, NTP, HDMI 1.4, FTP, FTPS
MTBF	80,000時間以上

MxThinClient: 注文情報		
注文番号	詳細	出荷
Mx-A-TCLIENTA	モニター/TVにカメラとドアステーションのライブ画像を転送するためのPoE給電IPビデオデバイス・パスワード保護されたウェブインターフェイス・シーケンサー(時間制御)或いはMxMessageSystem(イベント制御)経由でのビデオソースの自動変更・入力(PoEスイッチに接続): 1xイーサーネット 100Base-T(RJ45)・出力(モニター/TVに接続): 1xHDMI Type D(MicroHDMI)・接続ケーブル(イーサーネット、HDMI)は含まれず・屋内仕様のみ: 保護等級IP20、環境温度0-40℃・提供される粘着ストリップで、デバイスは容易にモニター/TVの裏側に取付可能	2017年7月より

お問い合わせ先：MOBOTIX JAPAN（モボティックス　ジャパン）
Tel：045-227-6174
Fax：045-227-6286
e-mail：cam-sales@mobotix.jp
www.mobotix-japan.net

MOBOTIX AGについて：

MOBOTIX AGは、1999年にドイツ・カイザースラウテルンで、Dr.Ralf Hinkelにより創業された、ネットワークカメラ・システム開発製造会社です。全てのMOBOTIXネットワークカメラは、ドイツ本社工場で製造されています。
www.mobotix.com

MOBOTIX JAPANについて：

MOBOTIX JAPANは、MOBOTIX AGの日本パートナーである株式会社K.J.フェローにより運営されています。
MOBOTIX JAPANは、MOBOTIXの日本総輸入販売代理店です。
www.mobotix-japan.net

K.J.フェローについて：

株式会社K.J.フェローは、2003年10月に創業。ネットワークカメラ、セキュリティ関連の海外製品の輸入販売、コンサルティング専門のIT＆セキュリティ技術商社です。MOBOTIX JAPANを運営し、日本市場開拓を担っています。
www.kjfellow.com